自然エネルギーネットまつもと：2015 年度第 4 回学習会

テーマ　　環境と経済：世界経済と地球環境、日本との関係を考える

2015 年 7 月 31 日

長野県地球温暖化防止活動推進員・気象予報士）宮澤

安部政権の経済政策が話題（問題）となっています。環境（エコロジ）と経済（エコノミー）は、もともと同じ語源で、家の学問・家のルールというような意味合いを持ちます。どちらも、人（家）と社会や環境との関わり方を考えていくもので、大きな共通点があり、とても重要です。

環境と経済の双方の関係と問題点について、考えてみましょう。

＜経済の基本＞

経済の基本は簡単です。**需要と供給**で決まります。
需要よりも供給が多ければ、物価は下がります。これを**デフレ**といいます。
供給よりも需要が多ければ、物価は上がります。これを**インフレ**といいます。

＜安部政権の経済政策とは？＞

・2%のインフレ目標。　・円高の是正。　・政策金利をマイナスにする。
・無制限の量的緩和。　・大規模な公共投資（国土強靱化）。
・日本銀行に建設国債を引き取らせる。　・日本銀行法改正。

以上のように、いろいろな経済政策が打ち出されていますが、実は、全部、同じことを言っています。

日本では、1990 年代以降、「デフレ」が長く続いて、経済が縮小してきたので、これからは、「デフレ」から脱却するために、どんどん、お金を市場にばらまいて、需要を増やし、物価を上げ給与を上げて、経済を持続的に成長させようというものです。言い換えれば、お金をばらまいて、お金の価値（円の価値）を下げて、円安に誘導しようというものです。

＜デフレがなぜいけないのか＞

＜デフレとは＞　供給より需要が少ない。⇒　物価が下がる。　⇒　供給側（企業等）の経営が苦しくなる。
⇒給与が下がる。失業者が増える。　⇒　購買力が低下する。　⇒需要がさらに下がる。
⇒物価がさらに下がる。　⇒　経営がますます苦しくなる。　⇒給与がさらに下がる。失業者がますます増える。・・・・

以上のように、経済活動が、どんどん縮小していきます。これを「**デフレスパイラル**」といいます。

得をする人、損をするひと：

物価が下がるということは、お金の価値が上がるということです。　⇒お金を持っているひと（お金持ち）は得をします。お金の蓄えで生活しているひと（高齢者、年金生活者など）も得をします。　⇒借金をしている人は、損をします。

＜インフレならいいのか？＞

＜インフレとは＞　供給より需要が多い　⇒　物価が上がる　⇒　供給側は仕事が増える。利益が上がる。経営がよくなる。⇒給与が上がる。雇用が増える。（失業者が減る。）　⇒購買力が上がる。　⇒需要がさらに増える。
⇒　物価がさらに上がる。　⇒　企業の利益がさらに増える。　⇒給与がさらに上がる。雇用がさらに増える。・・・・

以上のように、経済活動が、どんどん拡大していく。　良い方向に循環していく。　良い事ばかりのように見えますが・・・
物価が上がるということは、お金の価値が下がるということです。
お金の蓄えで生活している人は困ります。借金をしている人は返済が楽になります。

＜経済を測る指標：GDP（国内総生産）＞

GDP とは、国内総生産のことで、これの増減を経済成長と言っています。
生産量ですから、言い換えれば、消費量、あるいは需要とほぼ同じことです。
したがって、デフレでは、GDP がどんどん減ります。インフレでは、GDP はどんどん増えます。

＜地球環境と経済（GDP）の関係＞

人類の活動の基本的な流れ：　**資源⇒人類の活動（生産・消費）⇒廃棄物**　：一方通行の流れとなっています。
この流れの中で、**人類の活動（生産・消費）**　の部分が、経済で言えば、**GDP** に当たります。
GDP を増やす、経済を成長させるということは、地球上の資源を廃棄物に変えていく流れを大きくすることになります。

＜地球の大きさが足りない？　環境と経済は両立しない？？＞

大昔は、人口も少なく、人類の活動も、地球の大きさと比べて、非常に小さかったため、地球の大きさを意識することはなく、自由に活動してきたわけです。ところが、産業革命以降、人口が増加し、生産・消費活動も活発化し、特に、20 世紀後半からは、石油を大量に消費する世界経済となって、先進国も、発展途上国も、生産・消費活動が激増し、資源の不足、廃棄物の増加、環境の悪化等、地球の大きさそのもの心配しなければならない状態となってきました。
以上のことから、**「地球環境保全と経済成長は両立しない」**と言われます。

＜地球環境を守るだけなら簡単？？＞

地球上の資源は限られていますし、廃棄物を捨てる場所も、無限にあるわけではありません。これでは、地球が持たない。地球環境が持続できないということで、私たちは、いろいろな環境活動、省エネ、エコ活動をしているわけです。
地球環境だけを守るなら簡単です。
一方通行の流れをなくせばいいわけです。すなわち、資源を使わない。廃棄物を出さない。つまり、人類の活動そのものを抑えてしまえばいいわけです。しかし、それでは、人類、私たちが困ってしまいます。
地球環境を守り、未来の子供たちに残してあげたい。持続する環境と社会を残してあげたいという一方で、現代の私たちも、生きていきたいし、少しでも豊かに暮らしたい。そのためには、**環境と経済を両立させる必要があります。**

＜経済とは何か＞

経済とは、私たちがほしい“もの”、必要な“もの”を、生産し、交換や分配するしくみ（システム）です。
（※“もの”には、形のあるものだけでなく、無形のもの＝サービス等も含まれます。）
自分が必要なものを全部自分でつくるのは大変　⇒交換が必要　⇒物々交換　⇒貨幣が仲介（＝**貨幣経済**という）
貨幣があれば、ものを交換したり、蓄積することを、効率的に行うことができるので、**世界の経済の大部分は貨幣経済**です。**貨幣は、ものやサービス等の“価値”を交換したり、分配するための道具**と考えられます。

株式や債券も、貨幣の代わりになるものですから、ものを生産し、交換、分配するための道具（手段）と考えられます。

貿易はどうでしょうか。これも、生産したものを、必要とする人に**分配するための道具（手段）**ですね。

まとめると、　経済とは、　① **ものやサービスといった“価値”を生み出すこと**

② **“価値”を、必要とする人に分配すること**　　となります。

私たちが豊かになること、満足することとは、より**大きな価値が生み出されて、それが、私たちに公平に分配される**こと。

以上のように、**GDP は、「生み出された価値」を測っている**とも言うことができます。

私たちは、生み出され分配された価値を手に入れ、それを増やしていくことで、豊かさを感じていると思います。

日本の経済成長（GDP の伸び率）がにぶっていると言っても、長期的にみれば、日本でも、GDP は着実に増えてきているわけですが、私たちは、GDP が増えた分だけ豊かになったと感じているでしょうか？

ここに、GDP の落とし穴があります。

＜GDP は、失われた価値を測らない！！＞

GDP の増加で失われていくものがあります。　ところが、GDP は失われた分をマイナスとして測っていません。

だから、GDP の増加と、私たちの幸せや豊かさの実感と合わないのです。

たとえば、化石燃料（石油や石炭）を大量に、生産や消費に使うことで、GDP は増加してきましたが、資源（地球の価値の１つ）は、どんどんと失われています。森林を、再生する速度よりも多く使うことで、同じように、地球の環境の価値が失われているわけです。

また、私たちは、まだ使えるものを捨てて、新しいものに買い替えます。それによって、GDP は増えますが、個人の豊かさでみれば、まだ価値のあるものを捨てた分は、豊かさも割り引いて考える必要があります。廃棄物が増えて、地球環境を汚している面もあります。

大地震等の自然災害で家や家財を失った場合も同じです。再建の需要で GDP には大きく貢献しますが、個人としては、失った価値の方が大きいと思います。個人だけではなく、社会としても、地球としても、価値を失っているわけですが、GDP には入ってきません。

以上のように、「失われる価値」とは、主に、地球環境や人類が築き上げた個人や社会の資産です。

＜環境と経済は両立できる＞

資源⇒人類の活動（生産・消費）⇒廃棄物　という一方通行の流れではない生産・消費活動ができれば、地球環境を守りながら、経済を成長させることができます。　　具体的には・・・

１）「資源」を損なわない「生産・消費」

生産・消費活動には資源・エネルギーが必要です。　自然の力で再生しない資源・エネルギーを使うから一方通行となって持続しないのです。　したがって、再生可能な資源・エネルギーを使った生産・消費活動をすれば、地球の価値を損なわずに、経済成長させることができます。

・太陽光発電、太陽熱利用等、自然エネルギーを生み出し、利用する。

・森林を育成し、持続可能な範囲で、積極的に利用する。（材料として、あるいはエネルギーとして。）

２）「廃棄物」を発生させない「生産・消費」

３R（リユース、リデュース、リサイクル）が基本的な考え方となります。　とくに、環境と経済との両立のためには、廃棄物が資源に戻せるような産業（リサイクル産業）が成り立つような経済のしくみが必要です。

＜安部政権の経済政策をどうみるか。環境と両立するか。＞

ほんとうにデフレなら、お金を使う政策は正しいと言えます。

デフレから抜け出すためには、需要を増やす必要がありますので、政府は、借金をしてでも、公共投資等を実施するのは、正しいやり方ということができます。

問題はあります。政府がお金をばらまくことによって、借金をますます増やすことになります。国債の受け手を確保するために、日銀法を改正して、日銀が国債を直接買うことができるようにしようとしています。日銀が国債を買うということは、その代金のお金が市場にでていくことになります。総理は、お金をどんどん印刷すれば良い

と発言しています。これらは、大きな危険を伴います。お金（円）の価値が下がり過ぎ、市場にお金が余り、バブル経済や円の暴落、インフレの行き過ぎによる物価の急上昇等を招く心配あります。

もう１つの問題は、デフレから脱却したときに、逆に、政府が、増税や財政の緊縮化を実施できるかです。（過去に、これができなかったため、市場ではバブル経済となり、政府は借金が増え続けて、今日に至っているわけです。）

※）お金は、経済の原理で言えば、私たちが生み出した価値を交換したり、分配したりするための道具です。通貨としての信用・信頼と、その価値の安定が重要です。どんどん印刷すれば良いという発言は、危険です。

環境と経済の両立は、お金をばらまくか緊縮するか、という問題ではなく、何に使うかということに尽きます。

・価値を生み出す産業に使う。（太陽電池、自然エネルギーの開発等）
・再生可能な産業に使う。（林業、農業等）
・廃棄物を削減したり、資源に戻す産業に使う。（リサイクル産業）
・自然災害からの復興に使う。（※これも新たな価値を生み出すと言えます。）

＜安部政権とグローバル経済：　TPP の問題＞

TPP については、以前より、経済団体が賛成、農業団体が反対の構図が強調されていますが、本質は、もっと奥深いところにあります。　地球環境問題から、地域の問題まで広く巻き込んで、私たちの暮らしや、地球の将来に大きな影を落とす大問題です。　各党でも、賛成派、反対派を抱えてはっきりしませんが、安部政権では、閣僚や日本経済再生本部の会議メンバー等に、多くの TPP 賛成派を起用しており、推進する構えです。

＜TPP とは？＞

TPP：環太平洋政略的経済連携協定といいます。

もともとは、2006 年 5 月発効：シンガポール、ブルネイ、チリ、ニュージーランドの 4 カ国が参加しているだけの、小さな協定です。　**例外のない関税の完全撤廃、自由貿易をめざしています。**　この協定に、アメリカ、オーストラリア等が加わろうとしています。太平洋を囲む大きな規模の協定に発展させようとしているのです。

以上のように、TPP は、**自由貿易、グローバル経済を推進する**ことになります。

＜自由貿易、グローバル経済は、地球環境問題です＞

１）グローバル経済は格差を生む

経済は、私たちが必要な価値を分配するしくみであることを考えると、それを、全世界で自由にしてしまうと、競争によって、強い者だけが生き残り、必要なものが、全員に行きわたらなくなるのは、誰でも想像がつく話です。

実際に、現実に世界中で起こっています。それが、**貧困問題**、**格差問題**であり、私たちの生存に一番必要な**食糧問題**として、**飢餓の発生**という形で発生しているわけです。

２）グローバル経済は、地域の経済を破壊する

世界で一番安く作れるところが生き残ることになります。それによって、国際的な分業化、規模拡大が進み、**地域の産業の多様性が失われていきます。**

３）グローバル経済は、地域社会、地域の文化を破壊する

グローバル経済という考え方そのものが、地域の特徴、特性を考慮せず、世界中で自由に競争しようという考え方。

世界中のいろいろな地域には、地域によって異なる多様な特徴、特性があり、それが、**地域の価値**となっています。

たとえば、地域の自然環境、地域の産業、インフラ、地域の文化、歴史、生活習慣等々。

グローバル経済では、これらの地域の価値は、仕組みの外。（価値が認められていない。壊しても補償もされない。）

４）グローバル経済は、環境を破壊する。農業を破壊する

グローバル経済では、環境も仕組みの外です。

グローバル経済は、その仕組みの外、すなわち、地球環境に対して、大きな害を与えているのです。

たとえば、グローバル経済によって実際に発生している資源の枯渇や、公害、環境破壊、CO2 排出等による損害に対して、十分に負担（補償）しているとは言えません。　逆に、地球環境に対して、価値を生み出すような生産活動をしていても、それに対して、十分に報酬を受け取れるようになっていません。
すなわち、グローバル経済では、外部に損害を与えるような経済活動の方が、いわゆる“勝ち組”になってしまうのです。

＜グローバル経済の中の農業問題＞

典型的な例が農業です。日本の農林業が、世界に勝てない理由です。
世界では、**環境を損なう大規模農業の方がコストが安い**ために、日本のような**環境にやさしい農業をコスト競争で衰退させてしまいます。**しかし、大規模農業の方も、環境を持続させるやり方ではないので、いずれ、衰退してしまいます。
このようにして、**農業全体が破壊されていく**のです。

＜世界の大規模農業は、環境や土壌を劣化させる＞

★**オーストラリア**：　降水量が少なく、厳しい気候ですが、かつては、大森林に存在。一度、伐採してしまうと、二度と再生できず、農業も、**化学肥料と無理な灌漑**で行われているため、地下水位低下、塩分の蓄積で、砂漠化が進行。
★**アマゾン、ボルネオ**等：　**熱帯雨林を伐採して、大規模な畑作**が行われています。熱帯の強烈な日差しにより、覆いを失った土壌が分解され、次第に失われていきます。永続できる農業ではありません。
★**アメリカ**：　**化学肥料と地下水に頼った大規模農業**。地下水の水位低下が問題となってきており、永続する農業とは言えません。近年は**遺伝子組み換え作物**を主力として、収量を上げているわけですが、生物多様性とまったく正反対のやり方であり、未知の病気や微生物によって、壊滅的な打撃を受ける危険を持っています。

＜日本の農林業は、環境を守る＞

稲作は、環境を保全したり、大雨や日照りに対して調整する役割も持っており、商品としての米の値段だけでは測れない価値を持っています。日本の林業も、伐採して終わりではなく、再生して、永続するようなやり方です。
グローバル経済では、このような環境的価値は、仕組みの外なのです。
稲作や里山、森林を守っている農林業従事者に、環境保全の対価（報酬）が渡るような経済の仕組みが要。
世界が経済のあり方を変えていかないと、将来のために大事にしていかなければならないものをどんどんとつぶしていく。

＜日本の経済が今まで歩んできたこと＞

以上、述べたことは、実際に、日本経済が今まで歩んできた道と同じです。そのおかげで、日本は、世界第 2 位の経済大国となりました。その一方で、**地域の大事なものが、少しずつ、失われてきている**と感じませんか？
グローバル経済の仕組みの中では、**価値として評価されないために、失われてきた**わけです。
今すぐ変えることは難しくても、**本質的な問題を理解して、将来の経済のあるべき姿を描きながら**、目の前にぶら下がっている「TPP」をどうするか、という議論になっているかどうかです。

＜”グローバル経済”、”自由貿易”から”地産地消”へ＞

「地産地消」とは、**地域生産地域消費**の略です。地域で生産された様々な生産物を、できるだけ、その地域で消費することを言います。（特に、農林水産物で言われます。）
地域の産業を守ることか、雇用を守り、地域の環境を保全し、心豊かにくらしていくことにつながります。
地産地消の経済なら、グローバル経済の影響を最小限にすることができます。遠距離輸送が減らせますので、CO2 も削減できます。出来るだけ地域で経済を回し、どうしても足りない分だけ、貿易で売買するからです。

日本の食糧の自給率がわずか 40%ですので、地産地消ですべてがまかなえるわけではありませんが、グローバル経済に巻き込まれず､環境保全の価値をみんなが認めて､食糧自給率をこれ以上減らさないためにも、そして少しでも向上させるために、地産地消の考え方を進める必要があります。

未来の地球のために、私たちは環境の価値を損なわない経済を育てていく必要があります。

（たとえば、林業の振興（森林再生）、里山再生、水田の復活、自然エネルギー施設の普及（太陽電池、風力発電、水車、電気自動車等々）

＜”グローバル経済“から”環境経済”へ：環境と経済の両立＞

最大の問題は、さまざまな地域の価値や地球環境の価値（プラスもマイナスも）がグローバル経済に組み入れられていないことにあります。これが、現代のGDPの増加を目的とする経済（グローバル経済）の最大の問題点です。

環境の価値を組み入れる経済　とは、たとえば、

地球環境の価値を増加させるものには、対価を与えるようにします。

価値を損なうものには、対価（罰金、税金）を徴収することにします。

経済成長が成長してきたのに、豊かさが実感できない、心が満たされない、地域が衰退している、昔の自然や環境が失われた、というような違和感を感じる方も多いのではないでしょうか。

地域や環境の価値が組み込まれた経済なら、経済成長と私たちの実感が合ってくると思います。

そのキーワードは､・自然環境（山、川、湖沼、森、大気、地下水、土壌等）　・自然エネルギー（太陽の恵み）

・地域のインフラ（道路、上下水道、鉄道、電力供給、都市ガス、地方交通、景観、田園、里山等）

・地域の歴史、文化、伝統、気候風土、教育、医療、行政、公共施設等々